

『東工大 COE 教育改革—できる研究開発者を育成する—』

丸山正明 著 細野秀雄・三島良直・若井史博・岡田清・森健彦 監修

ISBN 4-8222-3202-6 日経 BP 社 四六判 236 ページ

日本電気硝子株式会社

内 田 弘

Hiroshi Uchida

Nippon Electric Glass Co., Ltd.

まずこの本は東京工業大学が細野教授を拠点リーダーとする 21 世紀 COE プログラム「産業化を目指したナノ材料開拓と人材育成」の立ち上げからその運用に至るドキュメンタリーである。ここで言う COE (Center Of Excellence) という言葉は、本来、優秀な研究者が集まっていて、独創的で根幹的な研究成果を出し続ける研究拠点を表す。日本語訳は「卓越した研究拠点」である。細野先生の言葉を借りれば「強いところをさらに強くする」であろう。

バランスシートを基に研究開発戦略や事業戦略を、経営者としてしっかり議論できる。こんな腕前を持つ研究開発者を育てる教育が今始まっている。東京工業大学大学院の材料系四専攻は“できる博士”いわゆるスーパードクターの教育へ乗り出した。改革を目指す東工大の今回の挑戦に、我国の産学連携にフォローの風が吹いている現在、大学にも構造改革の波が押し寄せ、大学自らもここまで変わろうとしているのかと驚いている次第である。

古いイメージであるが大学と言えばこれまで

象牙の塔にこもり、真理の探求をその目的とし、世の中の役に立つかは比較的無関心であった学者先生が、ここまで変わろうとしていることを知り思わず拍手を送りたい気持ちである。またその教育プログラムの中には産業界の実務者にプロジェクトマネージングコースの特任教授を依頼している点にも注目したい。素材産業であるガラス業界として応援せずにはいられない気持ちと、PM コースを修得した彼らが民間企業でどのような実績をあげるか見守りたい。ことにこの試みを材料系四専攻の博士課程からスタートしたことは、日本の強い素材産業をバックに世界のリーダーたらしめる並々ならぬ東工大の意気込みが伝わり、又なるほど素材産業（特にデジタル素材産業）が強い日本ならではの発想であると頷ける。材料関連の企業からは大きな期待でその成果が注目されている。経営の何たるかも分からず、ただひたすらに研究開発に没頭し、何故この商品が売れないのだろうと考える研究者・技術者の頭の固さを横目で見ながら、“できる博士”の登場を待ち望んでいる。

大学と企業（社会）のあり方として、産学連携の変遷をたどってみると、その関係は蜜月時代と呼ばれた時代もあり、その逆に大きく振り

〒520-8639 滋賀県大津市晴嵐 2-7-1
TEL 077-537-1314 (ダイヤルイン)
TEL 077-537-1700 (代表)
FAX 077-534-3572
E-mail: huchida@neg.co.jp

子は反対方向に振れた時代もあった。2000 年代に入って国立大学が独立法人化され産学連携は一段と加速された感がある。

現在、大学にとっての研究と教育とは何か？
逆に企業にとっての研究開発とは何か？ が改

めて問われている時でもある。大学の本来の使命である自由な研究と、大学は真の教育の場であることを肝に銘じて、この COE 教育改革を進めていただきたい。

日本の近代硝子工場の跡

官営品川硝子製造所



明治 10 年に建造された我が国最初の官営品川硝子製造所は、愛知県犬山市の明治村に保存されている。



現在の内部は、喫茶店と、ガラス製品の売り場になっている。